



「借りを返す」

マタイ福音書 18章 21～35節

牧師 安藤 脩

「ことば」って面白いですね。「借りを返しに来ました」と優しく言えば、嬉しい響きがします。「借りを返させてもらうぜ！」と凄みを効かせて言うならば、恐ろしい響きがします。

本来は、耕し、肥料をやると、稔りを返してくれるのが自然です。自然は神が創造し、命を育むものとして、人間に託されました。神はその状況を「善し」としました。しかし、今年は自然が牙をむいて借りを返しました。人間が自然を育もうとせず、むさぼり、破壊し、汚して来たことによるしっぺ返しであります。一四二地点で、観測史上最高気温を記録。逆に、93地点では最低気温を記録したそうです。また一ヶ月平均の降水量が過去最低の所があり、別の場所では記録的豪

2013年冬号

日本キリスト教団

横浜岡村教会

〒235-0021

横浜市磯子区

岡村 4-25-39

TEL 045(751)3917

牧師

安藤 脩

雨で、一日で、二ヶ月分が降った所もあったようです。高温、低温、少雨、多雨、竜巻等、これらは30年に一度あるかないかの現象が、一月から七月までに72件あったと報道されました。でも、今日の話は、得意げなペトロの質問から始まります。日本にも、「仏の顔も三度まで」という諺があります。イスラエルにも「3回まで許す」という考え方がありました。ペトロは「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。7回までですか。」それは3回を2倍して更に1回を加えたのだから、「念には念を入れよ」という、もうこれなら充分。とペトロは得意げに尋ねたのでしよう。しかし、イエス様は「7回どころか7の70倍までも赦さない。」と言われました。それは、完全に、無限に何処までも赦しなさいと言われるのです。それが、神の赦しであり、愛です。

イエス様はそれを譬えて話されました。ある王が、家来に貸していたお金は1万タラントンでした。しかし、王は憐れに思い、寛大にも借金を帳消しにしてあげたのです。その家来は百デナリオン貸している友に会い、「借金を返せ」と迫り、友に情けをかけず、「借金を返すまで」と牢に入れてしまいました。今の金額に換算するなら、1デナリオンを五千円として50万円対30億円です。王の赦し、寛大な愛に対し、家来の無慈悲さが浮き彫りにされています。

この王は神であり、家来が私たちだということです。神が与えてくださった恵みに対して、私たちは何をお返ししているのでしょうか。神の与えてくださった豊かな自然、赦しと愛に対し、かえって、強欲になり、貪り悪をもって返している。その結果が自然の汚染であり、破壊です。現代は豊かそうに見えながら、滅びの时限爆弾を製造しているのです。私達の、自分では償いきれない神への負債を、主イエスが命をもって償ってくださいました。罪を赦して頂いた、その愛と恵みに、私達は何をもってお返ししたらよいのでしょうか！

証し

全てを御心に委ねて



今給黎 美代子

「あなたの天を、あなたの指の業を、わたしは仰ぎます。月も、

星も、あなたが配置な

さつたもの。そのあなたが御心に留めてくださるとは、人間は何ものなのでしょう。」(詩篇八・4〜5)

私は子どもの頃、真つ暗な天空に燦然と輝く星々を見上げて、この宇宙の星も銀河も、お造りになられた方が居られるのではないか。それはどんな方だろうと思っていました。

成長するにつれて、忙しい日常生活をこの世にならって歩み、自己中心、物質万能主義で、豊かさを追い求めていました。そのような時、私は夫の転勤に伴って横浜市磯子区に来ました。自分も2人の子どもも、環境に適應できない等で、神経が疲れてしまいました。そしてどの様な人生が、生きるに値するのかわからなくなりした。そんな時に、子ども集会で、初対面のS姉に自分の思いを打ち明けました。S姉はご自宅の家庭集會に招いて

下さいました。そこで私は横浜岡村教会の梅澤牧師に出会わせて頂きました。その後、教会の婦人会、更に聖日礼拝に導いて頂き、聖書を学んで行きました。次第に聖書の御言葉が人生の道を照らし、導いてくださることが解ってきました。

そして宇宙を創造された偉大な神様が、虫にも等しい私たちを愛して、御子イエスさまを十字架の犠牲にされてまで、私が自分では償う事が出来ない罪を贖って下さったことが解りました。この何にも換えることが出来ない、イエスさまの御愛と恵みに触れた私は、何時か信じるのではなく、今、信じる者になりたいと決断しました。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」(使徒言行録十六・31)この御言葉を握って、信じて人生を歩めますようにと、祈りつつ罪を告白し、悔い改めへと導いて頂きました。1973年、クリスマス礼拝の中で、梅澤幸太郎牧師から洗礼を授けて頂きました。私は、神様からの最高のプレゼント、受洗の喜びと平安を頂きました。それからは、家族の救いを願って、御言葉に信頼して、忍耐と希望を持って祈るこ

とが出来ました。そして14年後のクリスマスに、息子が受洗の恵みに与り、後に結婚した伴侶も受洗して、主が導いて下さる道を共に歩んでいます。更に、34年間祈っていた夫に、主は、時を備えてくださいました。夫は、2007年の召天者記念礼拝から出席する様になりました。そして、安藤 脩牧師からは愛情溢れるお導きを頂いて、同年のクリスマスに洗礼を授けて頂きました。受洗後の夫は、聖日礼拝出席を楽しみにして、一日も休むことなく最も大切にしました。そして常に聖書を読み、御言葉を学んでおりました。私は、夫と共に祈る幸いを与えて頂き、感謝な時を過ごしました。

その後、夫は病を得て、受洗の2年半後に、天に召されました。御言葉は真実です。神様が備えられた道は、決して変わることはありません。信頼する者は、揺るがされないことを確信して、全てを御心に委ねて、信仰生涯を全うしたいと願っています。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」(エフェソ書二・8)

証し

顔と顔を合わせるその時



藤山 クニエ

私が「神さまがおられ、天地宇宙を造ったばかりでなく、人をも造られて愛している」と

ということを知ったのは、交通局に入った時でした。休憩時間になると運転士である岩沢兄から、天国があること、主イエス様を信じればすべての罪赦されること、神様にいつも守られることなど、いつも聴かされました。

朝早い勤務もあるため、世話になっていた姉の家を出て、元プリンスホテルのすぐ下にある森寮に入りました。16畳の広い部屋に6、7人一緒でした。まちなちな勤務の為、大変だったことを覚えています。一番年長だった私は、次々と結婚相手を見つけ、寮を出て行く人をうらやみ、嫉妬しねたみました。結婚だけが人生の最終目標のように思え、自分には生きる価値はないのでは、とも思いました。紹介してもらったその人はかなりお酒によって失望しました。一番親しくしていた友は結婚を前に結核を発症、青森に帰ってしまいました。死が一番こ

わかった私は、神さまにすがりついたのでと今おもいます。

1965年1月17日、初代牧師梅澤幸太郎先生より洗礼を授けていただきました。その夜、寮の部屋で聖書を開きました。「今は鏡に写しているようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。」

(「コリント十三・12」)このみ言葉を讀んだ時、今はよくわからないが、その時には完全に知ると書いてあるから、すごい！ 知る時がくるんだと納得したことを選び出します。しかし、その後の結婚までの十ヶ月間は考えられないような罪のつみかさねでした。勤めながら遊び歩き、聖日礼拝はなかなか出られず、水曜の祈禱会に出ました。寒い時、礼拝堂の真中であつた石炭ストーブはなかなかもえあがらず、煙充滿になったこともありました。同じ職場にいた方が「自分の弟がいるが一度遊びに来ないか。自分より良く働くよ」と声をかけられたことで主人と出会い、1965年11月21日、結婚式をさせてもらいました。よろこびも束

の間、私は、肋膜炎であることがわかり、クリスマス前に入院、半年間の入院と三ヶ月の自宅療養となり、すっかり教会から離れてしまいました。その頃悲しい大きな出来ごとがありました。森寮が大雨の為、裏山がくずれ、以前一緒に生活した同僚が三人亡くなったのです。私は自宅療養中だったので、寝ていたのですが、ドスンという音で良く見ると床の間にヒビが入りました。おとなりのブツロク堀が倒れたのでした。

職場復帰、流産を経て、五年後、長男が与えられた時は本当に神様は生きておられると信じられました。教会にもどりたいと願いましたが、母の死、長女出産・何と教会にもどつたのは受洗から十年経ていました。その朝の礼拝は、聖餐式があり、私はとても受けられないと思いましたが、梅澤清子夫人が悔い改めて前へ出なさいと促して下さり、聖餐にあずかったのです。それ以来休むことなく、教会に出席しました。今は、すべての望み、すべての喜びは神さまにいだかれ、イエスさまと共に歩むことです。「わたしがあなた方に話した言葉は、霊であり、命である。」ヨハネ六・63 感謝しつつ走りつづけたいです。

讃美歌作家の信仰

マリア会では、今年は「讃美歌作家の信仰」を学んでいます。礼拝で、祈禱会で私たちは、多くの讃美歌・聖歌を歌っています。学びの中で、讃美歌が作られた背景には、その作家の命をかけての感動的な証しがあることを知りました。その中のいくつかをご紹介します。



「アメイジング・グレイス」
（聖歌229番「おどろくばかりの」）

アメイジング・グレイスはジョン・ニュートンの作詞による讃美歌です。特にアメリカ合衆国で愛唱され、現在では世界中でたいへん愛好されています。「Grace」とは「神の恵み」「恩寵」の意。作曲者は不詳。

ジョン・ニュートンは1725年、地中海航路の船長ジョンの一人息子としてロンドン（イギリス）に生まれました。母エリザベスは、息子が将来牧師になることを念じて3歳のときからアイザック・ウォッツの教理問答、讃美歌などの教育。6歳でラテン語を教え始めました。しかし、7歳になる直前に、この母が亡くなったので、彼は父の職業を継ぎ、船員になり11才で舟に乗る生活が始まり

ました。1748年、彼が22歳の時に転機はやってきました。船長として任された舟が嵐に遭い、非常に危険な状態に陥ったのです。今にも海に呑まれそうな舟の中で彼は必死に神に祈りました。激しい嵐に生命の危険を感じたとき、彼は本気になって魂の救いについて考えました。その時かつて記憶していた聖書の言葉が蘇ったのです。（◎ヘブライ人への手紙6章4〜6節 ◎ペトロの手紙22章20節）

一度聖霊に与り、墮落した者は悔い改めに立ち返ることはできない、救い主を知ったあとで世に負けた者は前よりも悪くなる、という箇所、彼は恐怖に震えたのです。しかし、聖書を読み進んで、神は求めるものに聖霊を与えると約束されたことを知るや、深い慰めを感じました。

24歳のとき7年間の愛が実り、母の遠縁で、カートレット婦人の長女メアリ（通称ポリー）、と結婚することができました。彼はそれから40年の間、妻に対して変わらない愛情を注ぎました。

奴隷船の船長という職業の非人間性には無感覚でしたが、次第に良心が目覚め、船長を止め1755年にリパールの港で潮流観測員になりました。1764年

に按手札を受けることができ、ケンブリッジの近くの小さな町オルニーの教会に赴任し16年間の奉仕のあと、ロンドンのセントメリー・ウルノース教会という教会で、26年間牧師を勤めました。

「キリストにはかえられません」

（聖歌428番）

* 作詞者：レア・F・ミラー

（Rhea F. Miller 1894～1966年）

「わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています」（フィリピ3章8節）

レアはニューヨーク州ブルックトンデールの生まれで、父はマーティン・ロス、母はベルタでした。父はアルコール依存症でしたが、信仰深い母の祈りによって、アルコール依存症を脱して、ブルックトンデールのバプテスト教会の牧師になりました。レアはハワード・ヴァザー・ミラーと出会い結婚しました。レアが28歳の時、野原を散歩しながら、父の回心のとき、父が語った「私は金や銀よりもイエスが欲しい。お金で手に入れる家や土

家庭集会の恵み

小田 正子

初めて藤山宅家庭集會に出席したのは2012年2月末の事でした。受洗前の学びの時、悔い改めて心の戸を開き、キリストを迎え入れました。その時、安藤牧師に藤山宅での集會に誘っていただきそれから今日へと続いています。

クリスチャンの集まりなので、神様を中心に聖書を読み、その都度御言葉によって教えられます。少々音程が狂っても気にしないで聖歌を賛美します。まわりの人はどう思うでしょうか？家庭集會は少人数ですが、神を中心とした集いなので何か威厳を感じます。家庭内の祈りの課題を持っている私にとっては、牧師先生のメッセージをはじめ、皆様の祈りがどれほど私に大きな力と勇気を与えて下さったかわかりません。「喜ぶものと一緒に喜び、泣くものと一緒に泣きなさい。」
ローマ12…15



藤山宅での集いの中に参加させて頂き、幸せを感じています。神様のお導きの賜物だと思っています。

「誰でもキリストのうちにあるなら、その人は、新しく造られた者です。」
第二コリント5章17節

田崎家庭集會の恵み

田崎 郁代

田崎家では、家庭集會を初めて40年になります。ここまですぐさまさんのお恵みから神様から頂きました。結婚する前から田崎家では集會が開かれていました。集會の前にお掃除をしてほしいと言う事で、私は何回か2階の部屋を掃除にきました。集會には早園さんご夫妻や杉山兄が見えになりました。結婚してからは、哀が乳飲み子だった時、階段の拭き掃除が大変だったのを覚えています。

野沢先生の時、義母が入院していました。野沢先生や杉山姉などが、病院に行つて、洗礼を勧めて下さり、義母は洗礼を受けることが出来ました。

つい先日、10月15日、家庭集會の予定でしたので佐藤つる姉に来るようにお誘いをしました。つる姉は部屋を片付けて、掃除機をかけてくれました。

(4ページ下段より)

地よりもイエスが欲しい」という言葉を思い出しこの言葉が、そのまま詩になりました。レアの夫・ハワードはコネティカット州ハートフォードのナザレン教會の牧師になり、1940年にはナザレン教會総監督団の一員に選ばれ、1948年に天に召されました。レアはすぐれたピアニストで、夫の死後はピアノ教師として父と共に暮らしていました。でも1957年に父が天に召された後は、アイダホの娘夫婦のところへ晩年を過ごし、パーキンソン病に苦しみました。1966年に天に召されました。(担当・井上)



安藤幸子さんも来る予定になっていましたが、火曜日は台風の直撃で嵐になり、集會は取りやめになりました。色々な事がありますが、ここまで神様が集會を続けさせて下さり、感謝しています。



本宮教会訪問記(9月23日)

カレブの会 関口 猛

牧師とカレブの会メンバー3名は、7時15分に教会を出発し福島の本宮教会に向かい



11時15分頃到着。菊地牧師ほか7名の教会員の出迎えを受け、新礼拝堂を見学させていただきました。面積21・74坪、高さ6・7m、間口5・46m奥行き12・74m、席数40の趣ある建物でした。菊地牧師が、新礼拝堂で特に気に入っている所は、講壇の背後にある阿武隈川の堤防からも中が透通して何をしているかよく見え、オーブンなどと言っておりました。会堂入口には、「定礎」が据えられ「わたしは強く雄々しくあれと命じたではないか、うろたえてはならない。おのいてはならない。あなたがどこにいてもあなたの神、主は共に居る」と彫られています。数々の困難を止め、祈り委ね、皆が思いを一つにし、聖句の教えを実践した結果が此処に形として表されたのだと、神様の大きな恵みに感謝しました。敷地のなかには、教会付属の学

校法人本宮幼稚園(園長・菊地牧師)が併設されており、大震災のもと35名の園児を抱えて運営しているとの事でした。

本宮教会は、1916年(大正5年)に創立し今年で97年、幼稚園は1938年(昭和13年)創立の伝統をもち、遠い昔から信仰と恵みのうちに幾多の山坂にも守られ、今も多くの恵みの種がまかれている現実を見て感謝でした。幼稚園の庭には、福島原発事故の影響を監視し、放射線の環境調査をするためモニタリング・ポスト(約150cm×50cm)があり、現実の厳しさと、異彩を放っていました。昼食は幼稚園ホールで、弁当をご馳走になり交わりの時をもちました。高齢者の中には、移民政策によってハワイ・ロスアンジェルスに渡米し受洗、帰国後も信仰を守っている方や、原発被災地の浪江から避難した方、中学生、転入された方たちによる経験談、大震災による旧礼拝堂、牧師館の解体、除却、放射能の除染、幼稚園保護者への説明会等の話も聞き、神様の業の尊さと恵みに感謝の時を持ちました。そして教会の、宣教構想は、新礼拝堂献堂を契機として伝

道に再献身—いつでも夢を—です。第1期5年で『20人礼拝』を目指し第2期で『50人礼拝』を目指す。とありました。恵に充ちた時を共に過ごさせていただきました。岡村に着いたのは、午後7時15分頃になりました。運転した安藤牧師、坂本兄のご苦勞様と同時に、マリア会の協力に感謝。



迎えて下さった皆様と共に



檜造りの礼拝堂内

祝福式に参加して

J C母 谷口 直子

小学校に入学してから、横浜岡村教会へお世話になっております。二年生の今年、初めてこども祝福式へ、参加させて頂きました。一人一人名前を呼ばれて、牧師先生が祝福して下さり、お話しして下さったお言葉を聞いて、目頭が熱くなりました。礼拝に参加されている皆様にも、お祈りして頂いて、皆に守られている、健康に過ごし、成長させて貰っている事を、神様に感謝致します。

又、手作りのパウンドケーキは、とても美味しく、家族で頂きました。祝福式、ありがとうございます。娘は、毎週楽しく横浜岡村教会へ通っています。いつも暖かく迎えて頂きありがとうございます。これからも宜しくお願い致します。

バザー・こども祝福式に参加して

J C母 小澤 真由美

11月9日、バザー、翌日10日にこども祝福式と2日間参加いたしました。

バザーでは、喫茶コーナーをお手伝いさせて頂きました。子供たちも楽しく過

ごしていた様子でした。地域の方、教会の方々と接する事が出来て私にとっても実りある一日でした。

翌日のこども祝福式では、子供たち一人一人に安藤先生から温かいお祈りをして頂きました。こども達が、元気に今日まで成長してくれた事を神様へ感謝しました。

娘が小学校へ入学して、教会に通うようになり2年目。今年からは、息子も一緒にジュニアチャーチでお世話になり、安藤先生をはじめ、教会の皆様がこども達を暖かく見守って下さる事に感謝の気持ちで一杯になりました。



9名の親子が祝福を受けました



バザーでのヨーヨーコーナーこどもたちに大人気でした



2014年度

カレンダー「華のしらべ」発売

(安藤 華舟 絵・字)

来年用のカレンダーがいのちのことば社より発売されました。教会に注文して下さいると一部800円です。(消費税抜)



八重の芍薬。香り高く、部屋をやさしい雰囲気に包んでくれます。絵を描くときは、時が止まり静かな祈りの時となります。



木香薔薇。大船の植物園に大きく見事に咲いています。じっくりスケッチしたのを思い出します。



忘れな草。小さなかれんな花。リズムカルに描いていて、とても楽しかった。



ちよつと雰囲気を 変えたクリスマスツリー。

12月～2月行事予定

12月

- 1日 第1アドベント(讚美・ハンドベル)
ツリー点灯式
8日 第2アドベント(讚美・わかえだ、JC)
15日 第3アドベント(讚美・安藤家)
17日 田崎宅家庭集会
18日 三教会統一祈祷課題祈祷会
22日 クリスマス礼拝・祝会
24日 わかえだ会クリスマス会
イヴ・キャンドルサービス
キャロリング
25日 横浜ろばの店クリスマス会
27日 藤山宅家庭祈祷会

1月

- 1日 元旦礼拝
12日 成人者祝福礼拝
成人者・受洗者感謝会
20～21日 マケドニア会
26～27日 教区教職研修会
28日 田崎宅集会
31日 藤山宅家庭祈祷会

2月

- 4日 田崎宅家庭集会
8日 三教会婦人交流会(横浜岡村)
9日 1日信徒研修・懇談会
16日 三教会交流講壇交換(石井師)
三教会CS大会(横浜岡村)
18日 三教会交流委員会(横浜岡村)
22日 教区総会(清水ヶ丘)
25～27日 ケズニック・コンベンション(箱根)
28日 藤山宅家庭祈祷会
(毎月第1主日 聖餐式、役員会)
(毎月第4主日 各会の定例会)



JCの窓

(ジュニアチャーチ)

「人生初のバザー」

中一 瀬川紗綾

私は今までバザーというものを経験したことが、ありませんでした。

最初、頼まれた時はしつかり自分の役目が果せるかとても不安でした。でもバザーの日がせまってくるにつれて、なんだか不安よりもわくわくする気持ちや、バザーが待ち遠しいという気持ちの方が強くなってきました。

そして、当日。残念ながら天気は曇り。ですが気持ちは晴ればれとしていきま

た。まず、テーブルや椅子出しから始まります。私が今回担当させてもらったのはヨーヨー釣りコーナーです。ヨーヨーに空気と水を入れ、それを水そうに浮かべたら準備完了。だんだん、ドキドキ不安になってきました。今回最初のお客さんがきてくれました。その子は遊び終わった後、笑顔で帰っていかれました。次に来た子も笑顔で帰ってくれました。また、私が寒くならないようにと毛布を貸して下さった方もいます。私は今回とても心が満たされました。なので今度は私が満たす番なので頑張ります。

集 会 案 内

クリスマス・プログラム

- 12月1日(日)点灯式 午後4時より
いよいよアドベントに入ります。
イルミネーションに灯りをともして、
お祝いたします。どなたでも自由においで
下さい。茶菓の用意があります。
- 12月22日(日)クリスマス礼拝
AM10:30～正午・午後(愛餐会)
- 12月24日(火)イブ礼拝
PM 7:00～8:15
家族・友人を誘っておいで下さい。

編集後記

酷暑にうだった日々は遠ざかり、台風
の季節も去って、稔りの秋を迎えました。
一年を振り返って、実を刈り取る時季と
なり、「岡村の泉」冬号も、充実した紙面
をめざして、総務部で編集いたしました。
主に用いて頂けますように願ひ、祈りつ
つ更に良い紙面にして行きたいと思いま
す。皆様の寄稿をお待ち致しております。

(M・I)